

トカラ列島・中之島における冬期の鳥類調査(2)

山元幸夫*

An Ecological Survey of Birds in Winter on
Nakanoshima in the Tokara Islands (2)

Yukio YAMAMOTO

はじめに

トカラ列島は、鹿児島県本土と奄美諸島の間に位置し、渡り鳥のルートとしてよく知られているところである。近年、研究者のみならず、渡りの季節には一般の愛鳥家も観察に訪れるようになり、新しく記録される種も増えてきている。しかし、冬期における調査は少なく、当地で越冬する鳥類等についての報告は少ない。筆者は昨年度に引き続き、1998年2月2日～3日の2日間、中之島で分布調査を行ったので、過去の記録とともに今回の調査結果について報告する。なお、この調査にあたり、貴重な情報を提供していただいた中之島小中学校の原田勇臈先生と徳丸政治先生、ならびに未発表の記録を提供して下さった小倉 豪氏に厚く感謝申し上げます。

1 調査地の概要

中之島は、周囲28km、面積27.5km²のトカラ列島中最大の島で、島のほぼ中央部の標高230m付近にわずかに平坦地があるだけで、北半分は御岳（979m）、南半分は標高400mを越える山々によって占められている。山々のいたるところに代償植生のリュウキュウチク群落が形成され、島の面積の約4割を被っている。リュウキュウチク群落を取り囲むようにしてスダジイなどを主とした照葉樹林が形成されている。山から海にかけての急峻な断崖帯には、クロマツ群落がみられる。港に近い海岸沿いには集落があり、この周辺ではクロマツに混じりタブノキやビロウなどがみられる。今回の調査は、船倉集落から高尾集落にかけての道路沿いの林縁部、中之島小中学校周辺、高尾のトカラ馬牧場、池原の底なし池（御池）一帯、椎崎牧場一帯の5か所を中心に行った。観察には双眼鏡（8倍）と望遠鏡（20～40倍）を用い、出現したすべての種を記録した。

船倉集落から高尾集落に至る道路沿いには、ビロウやガジュマルが優占するモクタチバナータブノキ群落、リュウキュウチク群落、ヒロハネムが優占するウラジロエノキアカメガシワ群落、クロマツ群落、スダジイ群落などがあり、鳥の種類も豊富な所である。中之島小中学校周辺には、わずかであるが水田があり、その周りにはクロマツ群落が形成されている。高尾のトカラ馬牧場は現在放棄され、大部分がイネ科植物を主とした草地で、一部は雨水が溜まり湿地となっている。池原の底なし池（御池）周辺にはスダジイ群落が形成され、水辺にはヒトモトススキが生い繁っている。椎崎牧場およびその周辺には、ところどころに樹木が点在するリュウキュウチク群落が広がり、牛が放牧されている。これらの調査地点はFig-1に示した。

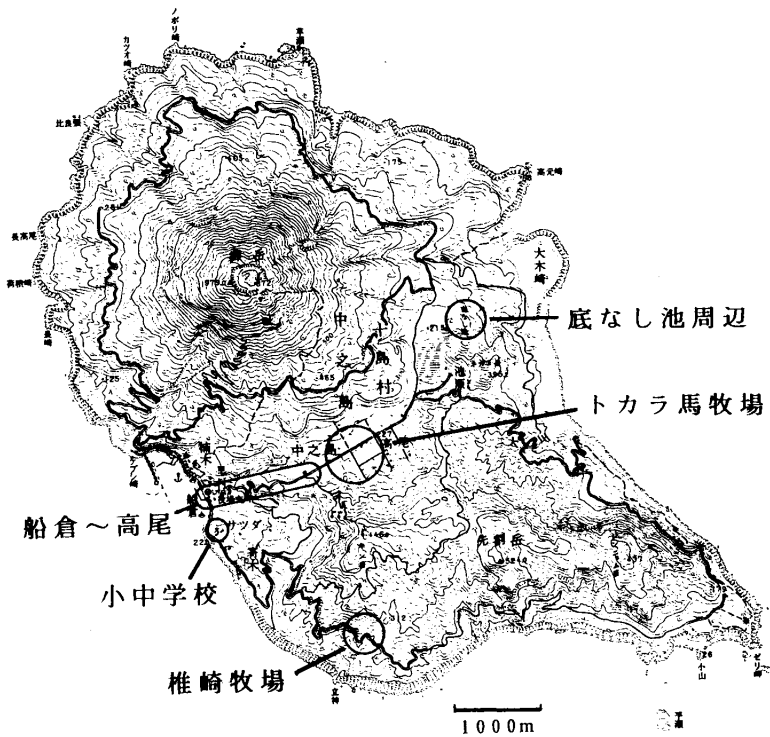


Fig-1 調査地点

2 調査結果

今回の調査では41種を記録した。種数は昨年度の調査結果(42種)とほぼ同数であるが、種類において新しく記録されたものがあった。中之島では冬期(12月～2月)において、過去(1997年まで)に77種が記録されていたが、今回、新たにリュウキュウツバメ、ノビタキ、キマユムシクイ、ホオジロ、ホオアカ、イスカの6種が追加され、83種となった。過去10年間の記録および今回の記録種についてはTable-1に示した。なお、リュウキュウツバメ、ノビタキ、キマユムシクイ、ホオジロの4種については、1998年1月9日、10日の小倉 豪氏の調査(未発表原稿)によっても確認されている。

○ リュウキュウツバメ *Hirund tahitica*

船倉の人家周辺の電線に止まっている3羽と、小中学校校庭上空を飛ぶ2羽を確認した。1997年夏に中之島で繁殖が確認され、トカラ列島での繁殖初記録となった。今回、冬期にも観察されたことから、少数が留鳥として生息している可能性がある。

○ ノビタキ *Saxicola torquata*

春、秋の渡りの時期にはよくみられるが、越冬の記録は初めてである。高尾のトカラ馬牧場の草地で1羽確認した。

Table - 1 冬期 (12月~2月) における過去10年間の記録 (中之島)

調 査 者		川	堀	小倉守屋	小倉	小倉	守屋	山元	小倉	山元
調 査 年 月 日		88 1 30 1 31	89 2 15 2 18	94 2 26 2 27	95 1 29 1 30	96 1 23	96 2 12 2 15	97 1 12 1 13	98 1 9 1 10	98 2 2 2 4
和 名	学 名									
1	カイツブリ		○		○	○	○			
2	カツオドリ		○	○	○		○	○		○
3	ウミウ			○				○		
4	ササゴイ	○						○		
5	クロサギ							○		
6	アオサギ		○						○	
7	ヒシクイ							○		
8	オシドリ							○	○	○
9	マガモ		○	○	○	○	○	○	○	○
10	カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	コガモ		○	○					○	○
12	ヨシガモ	○		○	○					
13	オカヨシガモ				○					
14	ヒドリガモ			○	○					
15	オナガガモ			○						○
16	ホシハジロ			○						
17	キンクロハジロ					○				
18	ミサゴ		○	○	○	○	○	○	○	○
19	トビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
20	オオタカ							○		
21	ツミ		○							
22	ハイタカ	○	○	○				○		○
23	ノスリ	○		○			○	○		
24	サシバ	○	○	○						
25	カタシロワシ			○						
26	ハヤブサ			○				○		
27	チョウゲンボウ	○	○		○	○		○	○	○
28	キジ	○		○	○	○	○	○	○	○
29	ヒクイナ	○								
30	バン		○	○	○			○	○	○
31	シロチドリ	○						○		
32	タゲリ			○					○	
33	イソシギ	○	○	○	○					
34	ヤマシギ		○		○		○	○		○
35	タシギ	○								
36	カラスバト	○	○			○	○	○		○
37	キジバト			○	○			○	○	
38	ズアカアオバト	○	○				○	○		
39	リュウキュウコノハズク						○			

調 査 年 月 日

		88	89	94	95	96	96	97	98	98
		1	2	2	1	1	2	1	1	2
		30	15	26	29	23	12	12	9	2
		1	2	2	1		2	1	1	2
		31	18	27	30		15	13	10	4
和 名	学 名									
40	アオバズク	○							○	
41	カワセミ				○			○		
42	ツバメ			○						
43	リュウキュウツバメ								○	○
44	イワツバメ					○				
45	ツメナガセキレイ					○				
46	キセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
47	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
48	ビンズイ	○	○				○	○	○	○
49	ムネアカタヒバリ			○						
50	タヒバリ	○		○	○	○		○	○	○
51	サンショウクイ	○	○	○	○		○	○	○	
52	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
53	モズ	○	○	○	○	○	○	○		○
54	キレンジャク							○		
55	アカヒゲ		○							
56	ノゴマ							○		
57	ルリビタキ	○		○	○			○	○	○
58	ジョウビタキ	○	○	○	○		○	○	○	○
59	ノビタキ								○	○
60	イソヒヨドリ	○		○	○		○	○	○	○
61	トラツグミ	○			○					
62	アカハラ			○						
63	アカッココ						○			○
64	シロハラ	○	○	○	○		○	○	○	○
65	ツグミ	○	○	○	○			○	○	○
66	ウグイス	○	○	○	○	○	○	○	○	○
67	キマユムシクイ								○	○
68	セッカ				○	○	○	○	○	○
69	ヤマガラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
70	メジロ	○	○		○	○	○	○	○	○
71	ホオジロ								○	○
72	ホオアカ									○
73	ミヤマホオジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
74	アオジ	○	○	○	○		○	○	○	○
75	クロジ					○				
76	アトリ		○					○		
77	カワラヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○
78	イスカ									○
79	コイカル	○								
80	イカル	○								
81	ムクドリ	○		○		○	○		○	○
82	ミヤマガラス			○						
83	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○

○ キマユムシクイ *Phylloscopus inornatus*

池原の底無し池（御池）周辺で1羽観察された。鳴き声からして、複数が越冬しているようである。過去、渡りの時期に平島、悪石島で記録があるが、トカラ列島での越冬例は今回が初記録である。なお、1997年秋は、県本土でも数個体が観察された。

○ ホオジロ *Emberiza cioides*

高尾のトカラ馬牧場で、ススキの穂を食べている雌3羽、雄2羽を確認した。また、あちこちで地鳴きが聞こえたので、越冬個体数は比較的多いと思われる。冬の記録としては、1971年12月に悪石島での記録があるが、中之島での越冬記録は今回が初めてである。

○ ホオアカ *Emberiza fucata*

高尾のトカラ馬牧場の草地で、2羽確認した。これまで中之島と平島で4～5月に記録されているが、冬期の記録はなかった。越冬個体数は多くない。

○ イスカ *Loxia curvirostra*

中之島小中学校周辺の松の木で雌雄1羽ずつ確認した。筆者が確認した1週間前にも小中学校の先生方により3羽確認されていた。トカラ列島では、1975年11月に悪石島で記録されて以来2回目の記録である。

おわりに

トカラ列島における冬期の調査報告は少ない。今回、これまでの記録の集約も試みたが、報告書等の収集に困難を伴った。これは、調査自体があまり行われてないことに加え、調査結果が未発表のまま埋もれてしまっていることにもよる。したがって、筆者の報告にはこれらによる欠落があるかもしれないが、トカラ列島の鳥相解明の基礎資料になれば幸いである。

引用・参考文献

- 迫 静男 1991. トカラ列島の鳥相. トカラ列島学術調査報告書, 118-166. 鹿児島県.
鹿児島県 1987. 鹿児島県の野鳥
森岡 弘之 1990. トカラ列島の繁殖鳥類とその起源. 国立科博専報, (23) : 151-166.
守屋年史・小倉 豪 1996. WWF Japan 1995年度南西諸島自然保護特別事業報告書 南西諸島 トカラ列島における鳥相. 鹿児島大学野鳥研究会.
山元 幸夫 1997. トカラ列島・中之島における冬期の鳥類調査. 鹿児島県立博物館研究報告 (第16号) : 49-52.
高野 伸二 1990. フィールドガイド 日本の野鳥 増補版. 日本野鳥の会.